子育ての悩みに寄り添う絵本



こんな時こんな絵本 その3 「けんかせずに仲良くしてほしい」

保護者の方からよく聞きます。「けんかせず 仲良く遊んでほしい」と。子どもは小さい時から 同年齢の子どもが好きで関心を持ちます。 関心がなければけんかも起こりません。

友達と一緒に遊ぶようになると、友達の していることが気になったり、自分とやり方や思 いが違ったりすることでトラブルが起こります。 友達は自分の思い通りに動いてくれません。

絵本「コッコさんのともだち」。コッコさんはほいくえんでひとりばっち一。子どもの繊細な心情、「寂しい」「恥ずかしい」「嬉しい」「悲しい」「楽しい」が愛おしいくらいに伝わってきます。友達ができて、嬉しくなって、けんかをして、いつのまにか仲直り、こうして子どもはどんどん成長していくのですね。

「けんかのきもち」。ないてもないてもなきたいきもちがなくならない―。泣いたってくやしい気持ちはおさまりません。くやしそうな表情、仲直りした時のちょっと照れたような表情、さまざまな感情が交錯します。子どもの偽りや飾りのない思いを知り、なんだか切なくもなります。けんかしながら対人葛藤や、人間関係の楽しさ難しさ、気持ちのリセットやコントロールを体験し、相手を認め受けとめていく。けんかは子どもの発達上とても大事なものです。

年齢や発達に伴いけんかの原因や内容 も異なります。

子どものけんかとはいえ、状況に応じて大人の介入は必要です。大人は子どもひとりひとりの気持ちを受けとめましょう。そのときどきの思いを汲んであげましょう。大人が介入しない方がよいけんかもあります。子どもの年齢や発達、状況に応じて対応していきたいものです。

今の時代、子どものけんかを気に掛ける ことはしていきたいものです。安心できる大 人の見守りは大事です。

それと共に私たち大人は、仲良い対人関係、談笑している姿を子どもたちに見せていきましょう。子どもたちは大人の笑顔が大好きです。

今回ご紹介する絵本



コッコさんの ともだち 作・絵 片山 健 福音館書店



けんかのきもち 文 柴田 愛子 絵 伊藤 秀男 ポプラ社

子育ちひろっぱ「めぐみ」代表 弘田 惠子

1998年から20年間高知市内の「めぐみ保育園」で園長を務め、現在は妊娠中からの悩みサポートを行う。 助産師、看護師、保育士、幼稚園教諭(二種)。絵本専門士(国立青少年教育振興機構認定)。絵本講師 (NPO法人「絵本で子育て」センター認定)。上級睡眠健康指導士。アンガーマネジメントファンリテーター



